

心身障害学研究所

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (3)	※ (—)	※ (3)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	8 (8)		6 (6)		— (—)		— (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	15 (21)			23 (36)			— (—)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	1 (4)	— (—)	— (—)	2 (—)	3 (2)			
	退学者	1 (2)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (2)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 心身障害学研究所の活動

本研究科では中間評価論文ならびに最終論文に関する論文発表会を年6回開催し、学生の課程修了を促進するために、発表の機会を多くしてきた。6年前から本研究科では各学生に主任指導教官の他に2名の副指導教官からなる論文指導小委員会を設け、学生の論文指導にあたってきた。中間評価論文については論文発表3週間前、最終論文については4週間前にそれぞれ論文の提出を求め、発表の可否を論文指導小委員会で評価するとともに、論文指導を行うというステップで論文指導の強化を図ってきている。

2 教員の教育業績評価の状況

課程博士修了者数は6名であり、平成14年度と同数の修了者数であり、定員の75%の課程博士授与率であった。また、平成14年度と同様、学生の論文発表および学会発表を積極的に指導するとともに、国際学会での発表および英文誌への投稿なども含め、海外への情報の発信を指導し、平成14年度よりも論文数、学会発表数は少ないが、質的に向上してきていると判断する。このことは教員による指導の成果といえる。

教員の教育業績については、対応する心身障害学系と協力して、学系および研究科運営委員会で自己点検、自己評価を行ってきているが、その教育業績評価の結果は指導学生数を考慮した予算配分数などの形で活かされている。また、学位授与率などに応じた制度を、現在の教員の集団的な指導責任体制である論文指導小委員会といかに併用するかが課題である。

3 自己評価と課題

課程修了者6名、日本学術振興会特別研究員(PD)2名と着実に成果をあげてきていると評価できる。また、本学研究技官1名の就職者を出し、本研究科の目指す人材養成を着実に実現してきている。

課題に関しては以下の3点があげられる。

- (1) 在学6年以上の学生が5名おり、そのうち平成16年度博士論文提出予定者は2名である。これらの学生の課程修了を促進するため、さらなる指導が望まれる。新研究科への移籍の課題が残されている。また、留学生の就職に関する課題も残されている。
- (2) 高次脳機能障害に関する研究領域の充実に、人間総合科学の他専攻と研究・教育における連携を図る必要性がある。